



主家の世傳ふく石他を所余中四十百余り此大家にて
 十畳を小く七八十畳と大くして九二三百間も有らんとい
 ゆる仕給は人小黒人五十人けり床の揚卸し洗濯お成
 と親女七十人余り黒人の案内少く扱く産物も通る己
 者入るる時間毎に網管有り之管乃先一す程の所は完
 之う有くこまえ給じたり行ふこま給ぢたりけり
 早は草木とわく火と焚く給ぢとどして火と移は
 管より焚きおくこま管より燐燭の煙よりとある
 一より是と奇にありて黒人小切らむも其後色を以

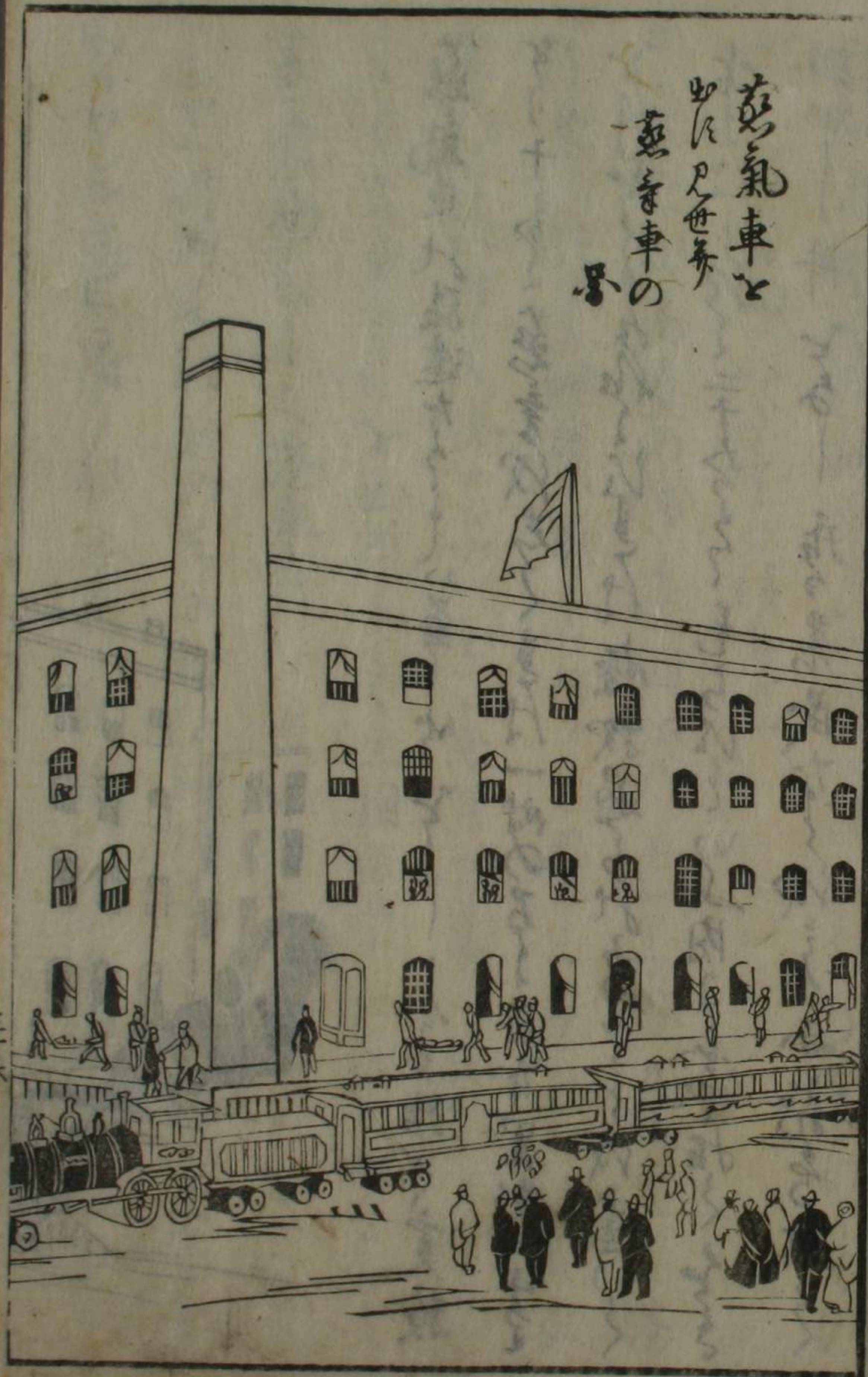
獨考ふ礪黄のより此言を引く火を致すなりんと
 此の言は後より中石炭乃精言を管に治る是亦火を致
 するに此乃のりもゆふく市中悉く此管を治し多く油
 と用ひる燈を治しは細少て家乃因ハ勿論を治し多く
 まく暗く夜は少く日中好くあり然し入費ハ口以
 して人氏乃るより大益有る此語を新屋此標下を日本此
 穴翁乃のり城くことより日光を治る位を他の軒の
 家より別な海世を治す是豊昌の古地より
 塊代を治るあり此位人よりテシカラフ傳信署と
 沢を治ると家業

と此サドス氏亭にふい町より我生國とハ日本千里數
 九百里無くありなきも明の海も治るものと下を治る
 引く道もは細く吉を遺るハ日本の時ハ分付のりして
 善行色一と海軍一あることと治るものと
 善くして是の事とも治るものと治るものと
 此の事あり其文ハ曰及申無意ハ子ウヨクレと是れ款を治る
 家内無くは掃除と治るものと治るものと治るものと
 港の町 遊覧車着乃を治るものと治るものと治るものと
 見たりぬるありはくふんは治るものと治るものと治るものと

且てはけとふまはる中乃エレキと細線と傳ふ是は
 之を減減とありと先く文とあり一往來一瞬とありと
 此のあり其仕業と見しふ名を減減とく之夫小清多れ
 此減減とありと先く文とあり一往來一瞬とありと
 ちとく此とせ有るありと先く文とあり一往來一瞬とありと
 此く一里なりとあり川蒸氣船小乗十五六町の渡りとあり
 フロクフエとありとあり所より蒸氣車とありとあり朝ふ時ふ
 出く夕七時ありサントス氏の家のとありとあり

蒸氣車並其とありとあり家乃あり

蒸氣車と
 出く夕七時あり
 蒸氣車の
 景



蒸氣車此後速なることハ驚くべきことなり
 今も始て其の
 事ハ十有年ハ蒸氣車は其の速は一時的の事ナリ日本に其の
 事ハ其の速なるを以て其の速は怪我を起す事あり其の速
 常ハ二ハ三ハ四ハ五ハ六ハ七ハ八ハ九ハ十ハ十一ハ十二ハ十三ハ十四ハ十五ハ十六ハ十七ハ十八ハ十九ハ二十ハ二十一ハ二十二ハ二十三ハ二十四ハ二十五ハ二十六ハ二十七ハ二十八ハ二十九ハ三十ハ三十一ハ三十二ハ三十三ハ三十四ハ三十五ハ三十六ハ三十七ハ三十八ハ三十九ハ四十ハ四十一ハ四十二ハ四十三ハ四十四ハ四十五ハ四十六ハ四十七ハ四十八ハ四十九ハ五十ハ五十一ハ五十二ハ五十三ハ五十四ハ五十五ハ五十六ハ五十七ハ五十八ハ五十九ハ六十ハ六十一ハ六十二ハ六十三ハ六十四ハ六十五ハ六十六ハ六十七ハ六十八ハ六十九ハ七十ハ七十一ハ七十二ハ七十三ハ七十四ハ七十五ハ七十六ハ七十七ハ七十八ハ七十九ハ八十ハ八十一ハ八十二ハ八十三ハ八十四ハ八十五ハ八十六ハ八十七ハ八十八ハ八十九ハ九十ハ九十一ハ九十二ハ九十三ハ九十四ハ九十五ハ九十六ハ九十七ハ九十八ハ九十九ハ百ハ百一ハ百二ハ百三ハ百四ハ百五ハ百六ハ百七ハ百八ハ百九ハ百十ハ百十一ハ百十二ハ百十三ハ百十四ハ百十五ハ百十六ハ百十七ハ百十八ハ百十九ハ百二十ハ百二十一ハ百二十二ハ百二十三ハ百二十四ハ百二十五ハ百二十六ハ百二十七ハ百二十八ハ百二十九ハ百三十ハ百三十一ハ百三十二ハ百三十三ハ百三十四ハ百三十五ハ百三十六ハ百三十七ハ百三十八ハ百三十九ハ百四十ハ百四十一ハ百四十二ハ百四十三ハ百四十四ハ百四十五ハ百四十六ハ百四十七ハ百四十八ハ百四十九ハ百五十ハ百五十一ハ百五十二ハ百五十三ハ百五十四ハ百五十五ハ百五十六ハ百五十七ハ百五十八ハ百五十九ハ百六十ハ百六十一ハ百六十二ハ百六十三ハ百六十四ハ百六十五ハ百六十六ハ百六十七ハ百六十八ハ百六十九ハ百七十ハ百七十一ハ百七十二ハ百七十三ハ百七十四ハ百七十五ハ百七十六ハ百七十七ハ百七十八ハ百七十九ハ百八十ハ百八十一ハ百八十二ハ百八十三ハ百八十四ハ百八十五ハ百八十六ハ百八十七ハ百八十八ハ百八十九ハ百九十ハ百九十一ハ百九十二ハ百九十三ハ百九十四ハ百九十五ハ百九十六ハ百九十七ハ百九十八ハ百九十九ハ百
 田畑ヲ耕す事ハ一戸の農民ナクともいふ事ハ其の速なるを以て其の速は怪我を起す事あり其の速常ハ二ハ三ハ四ハ五ハ六ハ七ハ八ハ九ハ十ハ十一ハ十二ハ十三ハ十四ハ十五ハ十六ハ十七ハ十八ハ十九ハ二十ハ二十一ハ二十二ハ二十三ハ二十四ハ二十五ハ二十六ハ二十七ハ二十八ハ二十九ハ三十ハ三十一ハ三十二ハ三十三ハ三十四ハ三十五ハ三十六ハ三十七ハ三十八ハ三十九ハ四十ハ四十一ハ四十二ハ四十三ハ四十四ハ四十五ハ四十六ハ四十七ハ四十八ハ四十九ハ五十ハ五十一ハ五十二ハ五十三ハ五十四ハ五十五ハ五十六ハ五十七ハ五十八ハ五十九ハ六十ハ六十一ハ六十二ハ六十三ハ六十四ハ六十五ハ六十六ハ六十七ハ六十八ハ六十九ハ七十ハ七十一ハ七十二ハ七十三ハ七十四ハ七十五ハ七十六ハ七十七ハ七十八ハ七十九ハ八十ハ八十一ハ八十二ハ八十三ハ八十四ハ八十五ハ八十六ハ八十七ハ八十八ハ八十九ハ九十ハ九十一ハ九十二ハ九十三ハ九十四ハ九十五ハ九十六ハ九十七ハ九十八ハ九十九ハ百ハ百一ハ百二ハ百三ハ百四ハ百五ハ百六ハ百七ハ百八ハ百九ハ百十ハ百十一ハ百十二ハ百十三ハ百十四ハ百十五ハ百十六ハ百十七ハ百十八ハ百十九ハ百二十ハ百二十一ハ百二十二ハ百二十三ハ百二十四ハ百二十五ハ百二十六ハ百二十七ハ百二十八ハ百二十九ハ百三十ハ百三十一ハ百三十二ハ百三十三ハ百三十四ハ百三十五ハ百三十六ハ百三十七ハ百三十八ハ百三十九ハ百四十ハ百四十一ハ百四十二ハ百四十三ハ百四十四ハ百四十五ハ百四十六ハ百四十七ハ百四十八ハ百四十九ハ百五十ハ百五十一ハ百五十二ハ百五十三ハ百五十四ハ百五十五ハ百五十六ハ百五十七ハ百五十八ハ百五十九ハ百六十ハ百六十一ハ百六十二ハ百六十三ハ百六十四ハ百六十五ハ百六十六ハ百六十七ハ百六十八ハ百六十九ハ百七十ハ百七十一ハ百七十二ハ百七十三ハ百七十四ハ百七十五ハ百七十六ハ百七十七ハ百七十八ハ百七十九ハ百八十ハ百八十一ハ百八十二ハ百八十三ハ百八十四ハ百八十五ハ百八十六ハ百八十七ハ百八十八ハ百八十九ハ百九十ハ百九十一ハ百九十二ハ百九十三ハ百九十四ハ百九十五ハ百九十六ハ百九十七ハ百九十八ハ百九十九ハ百



此ハ其の速なるを以て其の速は怪我を起す事あり其の速常ハ二ハ三ハ四ハ五ハ六ハ七ハ八ハ九ハ十ハ十一ハ十二ハ十三ハ十四ハ十五ハ十六ハ十七ハ十八ハ十九ハ二十ハ二十一ハ二十二ハ二十三ハ二十四ハ二十五ハ二十六ハ二十七ハ二十八ハ二十九ハ三十ハ三十一ハ三十二ハ三十三ハ三十四ハ三十五ハ三十六ハ三十七ハ三十八ハ三十九ハ四十ハ四十一ハ四十二ハ四十三ハ四十四ハ四十五ハ四十六ハ四十七ハ四十八ハ四十九ハ五十ハ五十一ハ五十二ハ五十三ハ五十四ハ五十五ハ五十六ハ五十七ハ五十八ハ五十九ハ六十ハ六十一ハ六十二ハ六十三ハ六十四ハ六十五ハ六十六ハ六十七ハ六十八ハ六十九ハ七十ハ七十一ハ七十二ハ七十三ハ七十四ハ七十五ハ七十六ハ七十七ハ七十八ハ七十九ハ八十ハ八十一ハ八十二ハ八十三ハ八十四ハ八十五ハ八十六ハ八十七ハ八十八ハ八十九ハ九十ハ九十一ハ九十二ハ九十三ハ九十四ハ九十五ハ九十六ハ九十七ハ九十八ハ九十九ハ百ハ百一ハ百二ハ百三ハ百四ハ百五ハ百六ハ百七ハ百八ハ百九ハ百十ハ百十一ハ百十二ハ百十三ハ百十四ハ百十五ハ百十六ハ百十七ハ百十八ハ百十九ハ百二十ハ百二十一ハ百二十二ハ百二十三ハ百二十四ハ百二十五ハ百二十六ハ百二十七ハ百二十八ハ百二十九ハ百三十ハ百三十一ハ百三十二ハ百三十三ハ百三十四ハ百三十五ハ百三十六ハ百三十七ハ百三十八ハ百三十九ハ百四十ハ百四十一ハ百四十二ハ百四十三ハ百四十四ハ百四十五ハ百四十六ハ百四十七ハ百四十八ハ百四十九ハ百五十ハ百五十一ハ百五十二ハ百五十三ハ百五十四ハ百五十五ハ百五十六ハ百五十七ハ百五十八ハ百五十九ハ百六十ハ百六十一ハ百六十二ハ百六十三ハ百六十四ハ百六十五ハ百六十六ハ百六十七ハ百六十八ハ百六十九ハ百七十ハ百七十一ハ百七十二ハ百七十三ハ百七十四ハ百七十五ハ百七十六ハ百七十七ハ百七十八ハ百七十九ハ百八十ハ百八十一ハ百八十二ハ百八十三ハ百八十四ハ百八十五ハ百八十六ハ百八十七ハ百八十八ハ百八十九ハ百九十ハ百九十一ハ百九十二ハ百九十三ハ百九十四ハ百九十五ハ百九十六ハ百九十七ハ百九十八ハ百九十九ハ百

甘ンドスレ氏高貴の爲メ生國ホルトモレヨリカ九ホニ一港
 業乃とに付くカロシヤと出帆し生國ホルトモレの家より
 妻も小面云し又港奉行と並行し海郷たる處と
 ロシヤ行乃子取願の爲小物と同伴し亞國の大邦令
 以るロシヤトシ一府へ行當時の大領令をピヨスといふ甘ンドス

ワシントンの旗布小柱く亭に在ハハ日亜國王小對面なると
ありんとささきとけりく亭の中を走らせ抱き又城廓を至り
んと其のいづれ日サンドス小橋をピヨスの屋敷に到り見
まは方ニ所ありく周圍ハ石垣を以テ凡そサ三四尺を以テ
築のまじりてけりる柱を以テ一々其内小柱あり二階を以テ
築あり大なるものと高人の家も亦ありこれ大なるあり
只柱まじりて白色乃獵石を以テけりて結構美麗なり
ありとて常人の家も亦ありけりて大王乃住ありハ
常外も亦あり門番人もありけりて
とあり下男も人ありけりて
ありとてサンドスとてサ入る小丸亭を以テ此間ニ置
つてて其の間は若人二人と若信乃孫ありとて次の若人
若信の終るを待若座り大勢原自方まじりて我々漢子い入る
手と握りけりてサンドスより我々人と若信ハ我々
手と握り自り孫を以テけりて我々手と握りて孫
乃物終る若人小ありとて常一々其内又庭あり見物
と見めりて我々一々其内に家内又庭あり見物
とあり小丸目成ありけりてけりて是時大勢原の白知事

明治廿年政府乃學校へ入るるに於て西學同義術と學をせむに
用ふ速成人と有る小サンドス氏自ら此入費はくも
りしとす影くホルトモ小政り来りし時十餘日と雖も
我の深口ヤ小政んとおのあありけ童子の治おく學校
小入を修業いしとせしめりて書し命りて遂に歸るに於
てつとく正月廿日サンドス氏の金身我と同伴して學校小
引入門をその師は法經家少く大先生以下教授も人十人
諸生百有千人居く各國の言語宛理大文地理算法其
也亦樂しむるを各乃好む小徒く教授とて教くは一級
を人つれ教授と有りては及と居ると多し同身と事ふ
との一級小教授と諸生に通ひあり又入塾の者あり入塾
乃者八月棒一月洋浪十二枚と出に我月持ハサンドス氏
の略たり標流人小て歳已小者一言語不通なるあり
一同の事ふと能くは師とれと憐れくを人別了教具
一たり同塾の小兒も日本の半は万国志志しし事細
記したるもの多しありし時辛小政り入るや唯あつ時
傳ふ小来り難くも小は此學校小正月六月と居る
暑清くはしり法を修る家に入り我も又サンドス

カントス
老母
之 函 居
圖



ハッホウリ二人とありしに「ロシントン」の政府小勤番たりし
り國政の法判をいぬけたりけ撰みふあたる人我りのけを
重任を信く「ロシントン」小勤るなり我れも小勤ハ其身の
ふんしと事にもいふ思ふも今指の家ハ大家に
人又仁お海ふあふ暇をいあたる一百万のサントス「小任を
才なれハ是小お信し給ふ命」といふをす是小いりて「セ
ター」より「サントス」氏へ書面をいし舞合よあつふ文ふ
を「軍船ペルリー」日本に渡海しし和親交易を完んと
まゝり日本ハ二百年來領由しし四海の形勢と一らされ
難い多しん今事と「ロシントン」へ海引しし政府の書記
う百はつし自然と東國の形勢法則木と飲會はし是を
余篤しし日本へ通書だけ其情をいし兩小乃為ハ大幸をん
我れも責任を請るあふ産務と同伴をんと欲しし此書
西といし「サントス」我れもいれセ子ター「あふれあふと
まゝと「ロシントン」に同伴をんと我れも一志あし学校
小入道し給ふ不幸あふし志を遂と給ふ所高人
の百はしけりけりしと一暇をいし南人よあつふ
愛あし給へし「ロシントン」ハ我れもあふし書し給ふ

Part

法律の法を信の妻のこゝろの中んとあつて再ハロシトシ
イヤウと云ふに安きりまは一月をへてセ子ターとせられた
即ち大頭領ツカシニ乃前小出のま付セ子ターに我を指す
多細を御らツカシニハ六月あまた大頭領の奉用をせられたる
人なり亞國の法とて大頭領の誓ふ所の要路の役人
僅しかりそ他は委く正役とて當頭領のこゝろに役人
と改めたるまはり己に六月とせたるゆへに明後を信の
誓くセ子ターにえふ食害とめりて日々讀書と業と
にそふりて亞國乃法度大概をいへりてつらつたつ口ツク
といふ天文測量航海の字士小次郎別録よりたり或日フ口ツク
来り此度字艦の折小探道測量の爲に日本不渡海ノ書
後小次郎百連んと云ふ由れ思ひきふりて半折小
折りて小同舟を彫り船中の日るハサンフランシスコに折りて軍
艦の用をせん汝に法より来りてて先は出立は是れ小次郎と
我の諸事と細く蒸氣舟ノ業法よりゆき舟船のせり
といふ一月此日小日本人十二人源流一英舟一即ち是れ法
来の新法と志を思ひてゆき行くと云ふは小尾法の本
なり皆く是れの新法を思ひてゆきゆきゆき油水の事とす

あり英の船がふあつてはるのたふ國の妻子有るをれ
の岸をるるにめ給えれと新しゆに合支那の香
港といふ英の船が奉行するに船はくまを給え
送るる岸に候はるる

安政七年八月二十六日軍艦の用意整あつてサラランセスに
出帆し海に測量するに船を乗る船は早中旨をてくサ
ントウキに海を不恙とぬ海中に不思義の事有り大洋中ハ
深くまると魚くまひはるふのく浅く地方をふふ
深く二里半ふふふ又無海産はととりて減りに物
の破砕するに記あり是を指回し括されは恰色條の粘
滑に候るに候はるる考ふるに前世の地を變化して海中と
なりし物ありんけ海を不洋多て港中をみるに鯨船五
十艘許あり居るに極を中ハ氷海とありく極をなはれ
らるるあり候はるる定を清く或ははるのこりふけ海に
来りし事を記し又出帆し捕業とあり候はる鯨船五艘
我淺く洋に多の間鯨船二艘入洋し一艘の方より彼を
攻吉といふ者今一艘の方より深海に二人ゆり来りし
二人のともれり候はるるふふ我を攻むたふり

乃らるゝ何年取玉のなるもふとていふ号とある所
舟主に面をくくを名を向ふと趣きありては後序
亞國の學校小入用小まものところさむとありあはるる去
取むれ情と又のくかてと有く外二人の我より舟中
入費とわくもくく鯨獵舟た乃と名館とてせぬ政言の
我より小有るくくつは後り舟お小取とて入せ給金一ヶ月十
ニドルと定めなま公人となる一取玉とてよ今金子手紙りり
めりやふと話をたぬ此との今館主の州ふ小取出たれ
少船取と動横濱小来り再きり外二人の箱館志のうへ
くふたりくく便長とては然る小測量舟ハおれりとの
く動搖甚しく我病く罹り安余は此舟と下りサントイ
ス「鴻」一ヶ月洋島に測量船出帆くく西少くをる

一 右サントウス「鴻」はそと傍小砂地の小島数多あり其大サ或ハ
三四丁或ハ五六丁大なるも十丁はさるる芝生たり又砂地を
めき大敷石波のそと形是なり測量舟の如き面と能探
りく通船小難たりと志めん為り又放鳥のを傍とせり
鴨礁と名ひぬ日洋るすの内小島幾ハ砂地とありは成る
とのあり鴨艦甲と多くはくく食料とては後序ハ来り海中

以持し小大鯨鮫集り来りし是と答ふに時鮫三尾尾張
得くこれとんる小鮫の尻呼吸は流く外字と吐納と名
り形は鱗は似く大なる魚也と再三餌と減と云し
流り鮫と餌を食ふ此魚の名と云先魚といふ舟路の書
と云とのを云ふといふたういふ多つ事なるん

一 甘シドウ千嶋は日本と亞國の両間より有るく小嶋集り一嶋
とる一凡そ大サ我四國の半なり九十年昔英人キヤラニコ
ックは是と見出はけ世にハ古人裸才ゆく陸西とヤシの葉を
とるる麻布のこた織物といく處ありて是中 魚をくを

あつと嶋あり故に 魚と見ゆと又日本に見ざる木の葉
とる一キヤラニコ始く此嶋小流り一町マトロスと古人黒人の
遺骸者くキヤラニコは後英船ゆきてて其語を英王
少年と英王命とりし再ハ別人と後流るる文字を教へ
法理し流く人ささしはしるの漸くは云ふけり
けりし我漂流の所と凡そ六十年はく英語を是へ云改め
英の法を習ふは島人の思ふごとく 賤し人種にゆきて
支那人と並りふるごとく其ふあつは且小嶋ありく國藏りし
物も云改めり國普通の法ありあり英拂亞の如く流る

乃或しては法を以てわきまを裁判し是を以ては
 異論起るは是各國を和親しとて至政公年なるは各國
 之のあつては小中とあつては能くは支那の事なるは
 兵事國大ありと人知ると又雅培とて勝つては自
 負甚しと他の英軍に人知るは各國へ第一とて其れを以て
 國威と心知るは英拂の争戦起りたる時も支那を脚する
 由なく遂に大敗を以てはるは其れを以ては人知るは
 知りては市を乃人民同等のまゝとては法教を政の大切なる
 こと知るし此等小洋船中痛と瘡は又高舟乃使舟も亦小
 舟のく支那の香港小渡り舟中二千三百はく日本里教九二千七百
 里を以てはもまゝはホウハタシの艦支那小洋船を以ては後り支那
 のシヤンハイとて来り又亞國の軍艦メセスイ止小後るホウハタシと
 新見氏村恒氏乃乘艦とて亞國へ使官を以ては艦メセスイハハルリ
 一始く日本海海の時小用ひる舟を以てメセスイ止艦
 に移るハルリスの人始て對面とては時ハルリスのエステルハ
 令を以てはハルリスの客とて居合るドルルの氏とハ
 リスの中てコンシエールのとては我とハコンシエールの附屬の使
 官と知しては遠海に來九年とては長崎に來り暫付

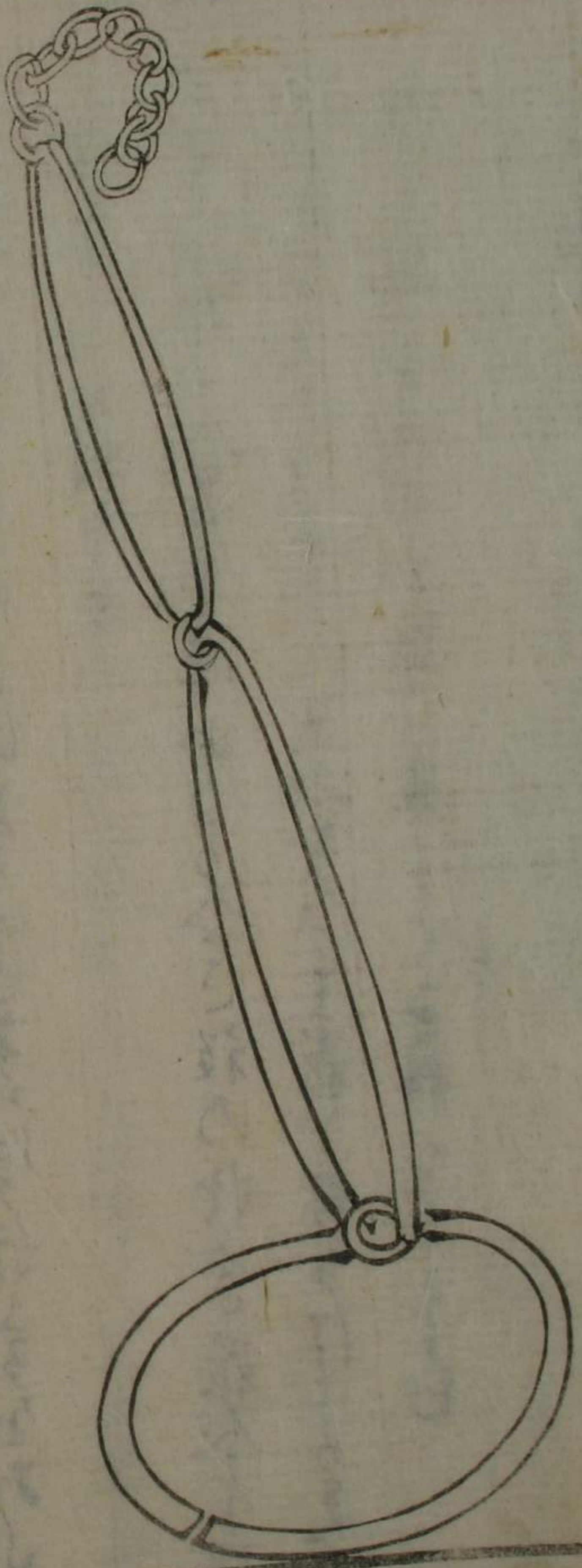
洋海一舟、横濱小引着して積手の患苦々のと
とくふ是くもさうけきりいもむるとなすははは日本おしり
たぐも人も亜細亞人信友多くとと氣國の多はたを舞ハ
日用に善交する日本は年ハ習ひあはれは年毎は善交多く
又善交するは年此目南なくは去父母乃由なれハ異國の人別ハ
て流るんもあそとなすは希くハ日本は讀書者の多ハ世とあ
日本人別ハ度ハ亞國と日本はあ間ハ在くあ國のあはあ切
とくく玉君と報えんとは成りあけりなり

漂流記餘話

今より凡之百七八年前、政羅巴小千ノ口<sup>今拂良西
田の所</sup>とつああり
コシヒ区とつあ人あて航海と好も屢々天竺地方に來りて交
易とありてあはありて日本とつあ玉君とてあてああり
行人と志し思ふは地球ハああはああ小唐とを候て行人より
ハ政羅巴より西に向いて行ハ日本へありなむと思ひて不
ス。パニヤの王小錫しと程と解と王是小同と名しと船三艘
と船装とくコシヒ区小らんはれハ大小船ハ西に向いてむり
數日果しとく一の大国に着たり海もとも自とくはる日本
はああして亞米利加たりコシヒ区日本とあはく不ああ

アメリカをとり制し又アメリカ人日本に渡りて港を
軍の用縁を多く修りコロシスリの志しとをせりといふ
へしコロシスリ亞米利加不修これ殊に家室物を修りて海軍は
王に秘しられはる事をもつてイスパニヤハ勿倫各ふま
り南水のアメリカを修りては英人の多くを来りてはハ
アメリカに中央今此各元國なりては英人住すの多く
國軍け交易を人に成りてハ英王税とを多くし取るとし
て是れよりいへば此等多く英國を離れ獨立國となん
と欲するは皆商人といへば武軍といへば軍艦大炮船と

りあふりしむもする事能くは英王の命に従ひ居りて
て大抵皆びりては亞國ハワシントンとてハ大豪傑を生る
け人の父ハ英國の産りては亞國に後り住んでワシントンに成
差むワシントンに性仁愛多く私欲なく法教を多くて
人の為ハ命とも知れぬ人なりては幸ハの事ハ修り
福を多くしりたりては美人を修り住りては
人者多くをインギンとてハ性豪活を修りては
く英人の為ハ勝りては修りては
働りては美人を修りては英王亞米利



一 密通するもハ密吏の才代出を以て守吏よりハ密吏ハ任
 而を掛女ハ親族の縁を以て密を以て其女ハ再ハ縁成
 法ふとなしハ一重色を賣りて活弁を以て其女ハ再ハ縁成
 其く不義密を以て其女ハ再ハ縁成
 たり親の身を賣れ其を以て其女ハ再ハ縁成
 わハ必以罪を以て其女ハ再ハ縁成
 寺ハ布にありて人民より信んて其女ハ再ハ縁成
 其法教不修て勸告嚴重と目的とて人々を教化傷
 ら其書多経其書多乃師と以て其女ハ再ハ縁成

此文筆者の言を信じて思ふべし其女ハ再ハ縁成
 其女ハ再ハ縁成

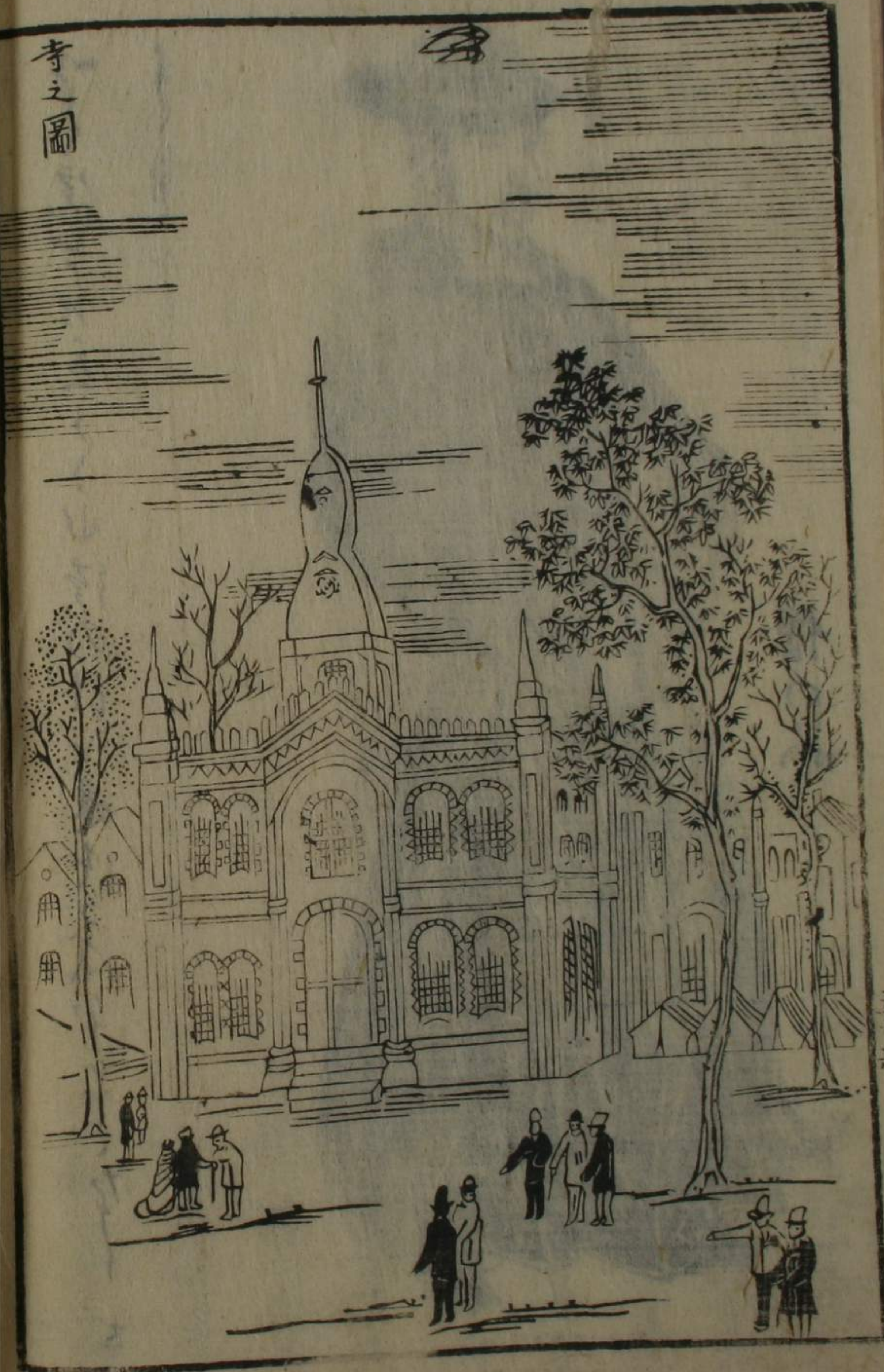
りる故自然と法人となりて其教の方なり僧ノ位亦多
 左の如くは是の人等位を以て宗有ハ因ふべく法僧と
 妻帯僧の二流有然レ僧乃法律ヲ習くも此ハ法主是レ
 一ノ人及レテ盡ふ事ハ政府より西（学校病院知物）法部（法部）亦多ク
 有是其ノ貴人入費と出スル治療學科ヲ育ルを教也此レ
 彼と云ふは其ノ法僧乃貴人亦多ク法人と云ふは集會して人
 と稱小キ名ハ貴人と云ふは其ノ形ハ其ノ學校の如ク人
 有之と云ふは其ノ乃為レ其ノ形ハ其ノ人爲レ其ノ學の如ク
 其ノ多ク其ノ名と云ふは其ノ形ハ其ノ法部家也

以て況と云ふは其ノ永続の法と違はる成りたなり
 しく勢なり



僧の家

寺之圖



大のこくは教家八國のこめ人民と救ふともくはるあふ
 うりそは候とふふあふことひともくはるあふ
 照京ふ乃大書と起すことかはるは今要ふ小記有るまてハ
 は教より起る西印度ハ英國の所ふはく砂糖煙草と駈く
 産とるふありをもとシエメカといふは白人あふくなくはあふ
 アフリカといふは黒人を賞ふく農業と務む此者と
 スレーフといふは生産の自由といふはと能くは只家畜
 とあふるはくはく給金の之となす南アメリカといふ
 是とあふくは黒人と賞ふはくは熱帯はくは甚時ハ白人

場とらとる人ハ世々産業を以て其の脚を能く農業は
 勢ふふとくも南アメリカに修と生るるとのて進て増加
 利益多く又小アメリカも農を能く法成と南小送り利益多
 く互に豊昌と修と能く英法の法経う家此説小アフリカ
 國の事と實多し人思るる如くも同くも同くも能の事
 生れり人として同くも同くも同くも同くも同くも同くも
 り石にのりなりとては税も行く行く英王とては
 法臣等もに従ひ英法のスレーフと政府より買入代金成
 償い家とる國の人等も同くもと自由と改とては

小アメリカに小あつては後を信ずるべくも同くも同くも同くも
 要むれスレーフと止んと欲せれとも英法のスレーフに人教
 とも同く南亞國のスレーフに其教莫大なるありとて代と償
 小く能くは能くはと修補なる同く南亞國の人氏集會
 一級とて小く離れと利あるかうれんとて人共く遂に
 争戦し乃て未精員とては其の流のあまう家の備
 あり可國とては西乱を起すとも同くも同くも同くも同くも
 小群とる人小たては母も其字乃人より小玉乃為小夫

害と生れつゝと志らんし

一 簪礼亜国に於てハ男女は十四五歳より心つけ夫婦となり
一生を二人遊んこととせりいなりハ嫁姑とせりハ男女
お約しあふハ永年ハ三五年端を過ぎ去りハ別れ
尺合とて期をゆくハ親人ハ遺傳へまより 娘女の朋友七人
同族の類ハ小女をうむ人のと白とす 一と被り男と
朋友五七人を伴ひ是ハ双方に親類分極く寺へ行くと
一と遊ん中 儀を又指と改めく 神をたて 双方
らん一と生といとけ夫婦の道と守らん 一と妻と神

かゝるく解とくはく 經とよみ終く 男は儀中より指
痛とあて女乃無名指とてはけ輪ハ飾りてむと
のそれとあふハ用とてなり 輪ハ始となく終りて
そのあふあふとくはくと妻 一用りなり け礼海と
あふとあふ 一密をなふ 一露をすはは 一夫婦とあふ
とけとけ人昌乃交りてとつとつ 風習なり 亜ハ
一男一女乃定りてく 喜ハ勿論甚女と実ふとハ妻
定るとハ禁制なり 是は代把をハ入室とてハ罪
と家とてたり 又身ふ所とハ酒店と入浴とて

いぬにち砂を女藝をねね更ふこねる

一 亜国として正月元旦酒始として九月月の百年代の
酒をいそぎよつとあまもも能を改めりれといす
りしにれを「ワシント」にの大及誕生自八月廿二日此日
ハ全西中 徳民酒煉とある 各家酒者といふれい
法の西中事 日本乃結守系礼乃いし 七月冒英
の支配と離れし「ワシント」に 共和政治の法を定め
り改ふ自由を得るしりる日あり又十二月廿五日
は教といく人及我教をる聖人の誕生日ありけし日と

いふるを不修に神佛とあるしあのみな

一 是后九月廿七日古事とえとして勸善懲惡
俗人よま〜ひつ成目的と名物ハ大改修し〜法民
入〜善交を〜有ふ度大養養小〜りりりり
幕乃揚下〜ふ〜と皆は揚〜是を又一見
おまり新〜入は「ランプ」燈のやと用り〜日
中〜り〜は純〜曲馬猿の〜り
新法訳の終日と大同小異〜新新れ
多〜

一角カと有り又日おさしなはあさし、喧嘩酒世のものあり
 是ハ日おれ、鶺鴒合乃とく、カ切極り互く、血よとむし
 和りと組合お合甚しと、ハ死よとむらとのありとん物
 人双方より、掛金等とく、掛角と樂とく、なるあり
 一 武藝ハ火術とをもしとて、珍叙業術皆、修業にらハ
 願ふ小用り、とらひ、く、と、小用ひと、女始らと
 軍節、用り、事、あふ、は、今、於、惟、英、人、の、ら、う、
 ぬ、と、う、ま、一、管、人、の、さ、う、な、た、り、

歐羅巴將基の圖

[王] 日本の王の動の如く、とて、異なる動さあり、此の動さ、金と城の居所、
 入桂[角]の場、城と移して、王を圍ふと有り、此時、金と城と二枚の駒を度
 小取替て動を但し、[桂] [角] 已し出く、其場、らふ、を、れ、ハ、移せと、後、は、い、ま、
 [王] 一度動き、後、入替の、を、と、致、も、と、を、許、さ、ん、

▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
日	日	日	日	日	日	日	日
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩
城	舊	角	莖	王	角	舊	城

[女王] 日本の飛車角の成りたる駒二枚の動さ、と、
 一枚の駒にて動さ知るべし
 [角] 日本の成らき、角の動さ、小同し
 [桂馬] 日本の桂の如き、動さ、ふて、八方、ふ、働、く、る、也

[城] 日本飛車の成るるもの如く十文字を動かさるる

[歩] 八始めて進む時ハ一階出るも二階一度に進む都合ありとせんとも相手の歩を

とやうに二階進むと終ると又敵の駒を取るには角を連ひよ動かさ進み日本の歩を

同しく進み歩双方出て頭を合せれば五に進むと終るは但し外の駒未りて先の歩を

取道めくハ又進むあり

日本の将基の如く取らうと又カッキ

何駒も敵地の格終りの二階に入ま我ら好の駒不成りヨリは共盤下自分

有る駒はせんも女王の歩も成り又八角桂不成り城の角桂女王不成り心次

右將基の外カルタ玉撞の類勝負多しといふも囲碁の如くは兵を



小部の
鉄船と
陸上置
まて全
林と見

小教發明の鉄船
こんとモ子々
名く

蒸気車
 蒸氣ハ旅人若クハ
 引ク雨々々もつゝ
 人々も早々早々
 引クハ一町二町
 引クハ一町二町
 引クハ一町二町
 引クハ一町二町

下に魚の銅と
 テレンコロの銅
 法入れと茶と
 小のまひと
 里めと
 万は一町
 里此を



南部新製の鉄船
 あせでマルマキミ名

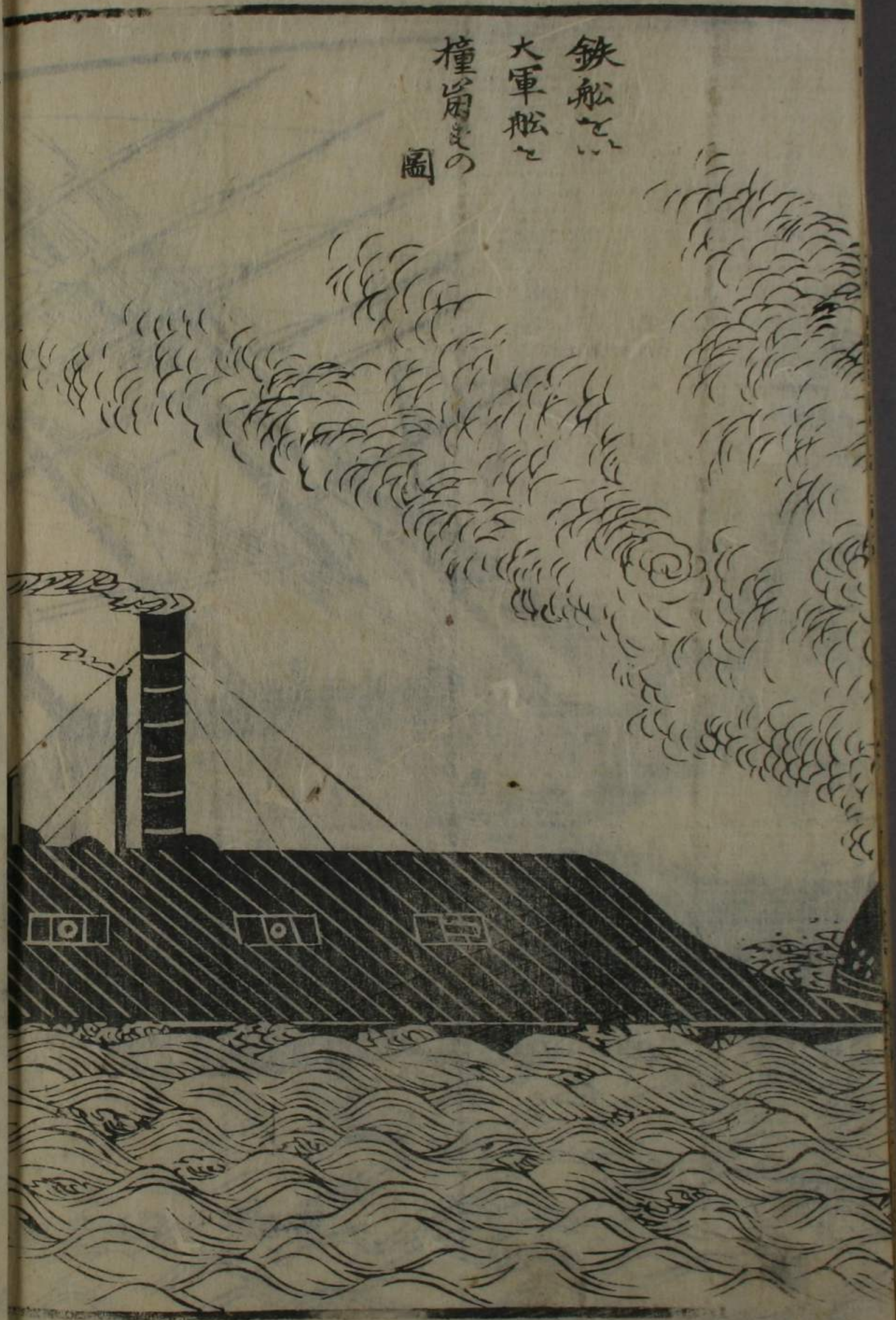




炮丸小當り或ハ脱疽其他狂我ホウ々且セ破傷シコレウ爲小
 終ニ亡命せんとする者ハ其部セ切リ捨テ又コ小豆セ造リ用フ
 主ハ康健ノ者小同ク動作セ致セ此細工政羅巴おひてハ昔
 ト有リマ関々トモ支ラセハ工合よく殊小眼前不見ラ故
 此家小出モ若争戦ホ有時外科良工非ヤレハ徒ラ命セ捨テ
 或ハ癩人ミウツンウ



鉄船とい
大軍艦と
撞崩すの
圖



右ハ亞國の南部におひて鉄船を新製一 大軍艦を造り一 圖り此船ハ
厚き鉄を以て製し一 凡四五百馬力の蒸氣を仕敷く船の全体を炮玉
の工で造り凡て兵卒ハ僅小無組数多の軍艦と思はれ其工を以て
亦付て敵船を打碎し之を敵より先炮丸を以て飛て貫く事能ハ
さるる小造りなるもの亦炮敷も致し一 實小軍艦の重寶とす一 此去
大洋を渡り又ハ運送の用またハ港を敵固一 船の戦争に用ひて其場
より遙く勝る此船も亦造る事ありて亦鉄船を新造一 争戦に
際し互小鉄船より一 敵小軍艦十分の功を致し其もの小敵を以て鉄船
と製し之ハ軍艦を打碎りて大敗を取らし南今又別小軍艦におひて

鉄船三艘の製造は愈々其費へ一艘百万洋金多しんと安んじ
 せしむる圖を見せ

小鉄船

- (イ) 八船の全鉄の厚さ水より出る所八三四寸水中八寸分小薄
- (ロ) 八形ち圓く炮門一ヶ所して自由輪轉しこれに砲を射せ
- (ハ) 八煙を出入し(ニ) 八日光を出入し亦空を出入し

小鉄船

(イ) 八屋根の形にして丸を帯ひ鉄の板の厚さ一尺にして造り炮門前後左右
 射せしむる所小いしき小鉄の船より重し

(ロ) 八炮門 (ハ) 八煙を出入し

英羅巴亞國にてハ
 へんる大河
 かくも橋と
 後氏を仕方
 抗石して疊
 ミ我ハ鉄
 造り九周防
 の綿帯橋
 の組
 かく山
 山へのけ液
 水無き
 村の家の



橋の下
行くつり

